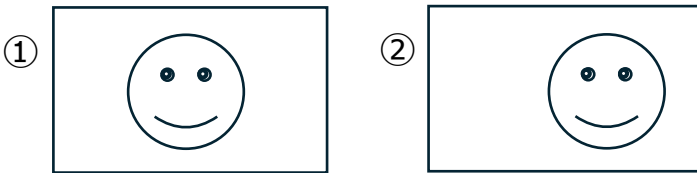


## 記念写真の巻

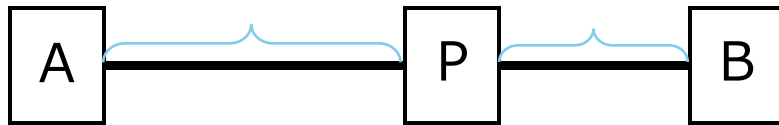
修学旅行につきものといえば記念写真でしょうか。普段でも写真を撮ろうという人は多いと思います。今回は写真について紹介します。その昔の修学旅行といえば、上限 36 枚しか撮れないフィルムを詰めたカメラや「写ルンです」などの使い切りカメラを持っていくというのが定番でしたが、今は写真を撮るためのさまざまなツールが存在しています。そして、これらの撮影ツールは昔と違って、ピント合わせも露出も自動で勝手に合わせてくれて、とっても簡単で便利です。しかし、どうしても自動化できないと思われるのは、「構図」ではないでしょうか。例えば、カメラを構えてファインダーと呼ばれる窓をのぞき、写る人や物をその範囲のどこにどう配置するか考えます。なかには何も考えずとにかくパシャパシャ撮っちゃうという人もいますが、できあがったものがイケてる写真か、そうでない写真かというのは、この「構図」で決まるわけです。



例えば、左の①と②の構図をみてみましょう。写るものを真ん中にする（俗に言う“日の丸構図”というものです。）①の場合と、ちょっと右に寄せた②の場合、②の方が左に空気感

が出たりします。写るものを真ん中にするよりもちょっと雰囲気が出ませんか？

これをさらに応用したのが、「黄金比」・「黄金分割」の考え方です。黄金分割とは、



このように、線分  $AB$  上に任意の点  $P$  を置いたときに、 $AP : PB = AB : AP$  になる場合のことを表していて、この比率の組み合わせが視覚効果的に一番美しいとされているものです。その比率はおよそ  $1.618 : 1$ 。これは、古代から美意識の基準とされていたもので、古代建築の寺院や神殿、北斎の絵から現代絵画に至るまで、あらゆる分野で応用されています。写真の場合は、③の要領で、対角線上で垂直に交差する点を求め、その部分にポイントとなるものを配置します。④はそれをさらに簡略化したもので、 $A \sim D$  のどこかに写すポイントを置けば、ナイスな写真が出来上がるという寸法です。修学旅行に限らず、普段の撮影にも試してみてもはどうでしょうか。

